

平成23年 9 月 5 日
水稻の作柄に関する委員会

水稻の作柄に関する委員会（平成23年産第 1 回）の意見

- 1 8月15日現在調査以降の気象の推移・予報等からみた作柄への影響
 - (1) 全国的に5月下旬から6月中旬にかけて低温・日照不足となり、6月下旬以降は、7月下旬に低温等となった地域が見られたものの、8月中旬にかけておおむね高温・多照傾向で推移した。

また、8月下旬は東日本を中心に低温・日照不足となり、9月に入り台風第12号が西日本に上陸した。

今後の天候の見通しでは、全国的に気温は平年を上回り、日照時間も平年並み以上と予想されている。
 - (2) 本年の水稻は、初期生育の停滞が見られたものの、その後の生育は平年並みに回復し、現時点で大きな減収要因は見当たらないが、今後の台風等による作柄への影響が懸念される。
- 2 次期の調査に当たって留意すべき事項
 - (1) 台風及び集中豪雨による作柄への影響に留意する必要がある。
 - (2) 8月上・中旬の高温及び8月下旬の低温・日照不足が、登熟や品質へ与える影響について見極める必要がある。
 - (3) 斑点米カメムシ類等の病虫害の発生が予想される地域においては、その被害の状況に留意する必要がある。
 - (4) 北海道及び東北においては、7月下旬の低温等による影響を見極める必要がある。
- 3 次期のもみ数確定期調査の調査期日

本年の水稻の出穂状況は、全国的におおむね平年並みとなっていることから、次期のもみ数確定期調査は例年どおり9月15日現在とすることが適当と考える。

【参考】

水稻の作柄に関する委員会委員

- | | | |
|--------|-----|-------------------------------------|
| (座長) 染 | 英 昭 | 財団法人中央果実生産出荷安定基金協会副理事長 |
| 黒 田 | 栄 喜 | 国立大学法人岩手大学農学部農学生命課程教授 |
| 中 園 | 江 | 独立行政法人中央農業総合研究センター情報利用研究領域主任研究員 |
| 長 谷 川 | 利 拡 | 独立行政法人農業環境技術研究所大気環境研究領域上席研究員 |
| 平 澤 | 正 | 国立大学法人東京農工大学大学院農学研究院教授 |
| 前 田 | 修 平 | 気象庁地球環境・海洋部気候情報課予報官 |
| 丸 山 | 幸 夫 | 国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻教授 |
| 山 岸 | 順 子 | 国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構准教授 |